資料１

令和８年１月20日
港　区

港区
「地域包括ケア推進事業」
令和7年度報告（令和7年12月末時点）

【掲載内容】

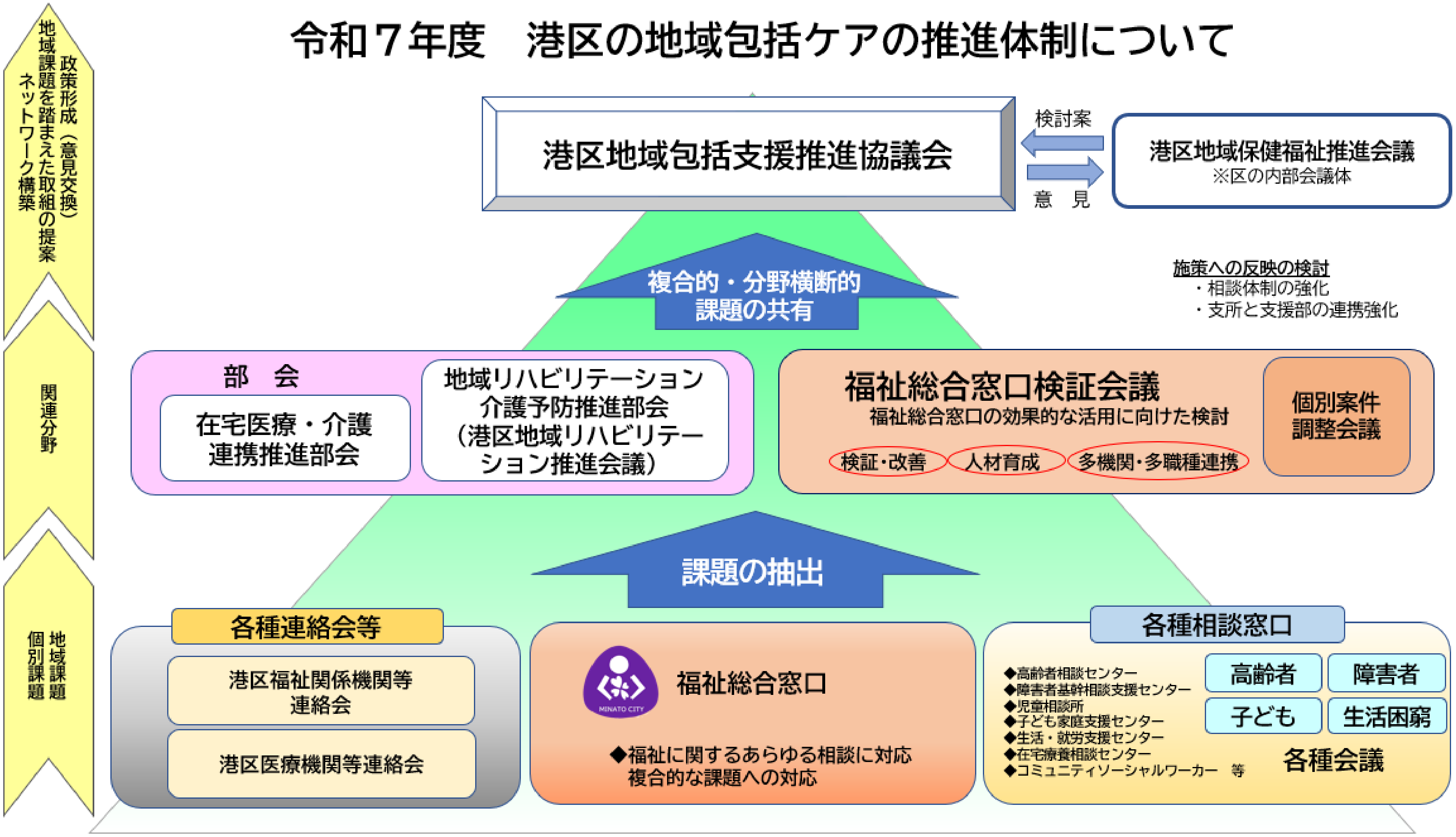
1　港区の地域包括ケアの推進について
2　地域包括ケアを推進する会議の報告
3　地域包括ケアを推進する連絡会の報告
4　港区地域包括ケア研修会の実施報告
5　港区在宅療養相談センターの運用
6　みなと在宅療養サポート入院（港区在宅療養後方支援病床）の運用実績
7　福祉総合窓口について
8　港区版ACPシートの作成・周知啓発
9　普及啓発

港区保健福祉支援部保健福祉課

1　港区の地域包括ケアの推進について

（1）港区の地域包括ケアの推進体制

　港区ならではの地域包括ケアの推進に関する事項や更なる多機関･多職種の連携を推進する協議のため、区では港区地域包括支援推進協議会設置要綱に基づき、各種会議を開催しました。



（２）地域保健福祉計画における項目と事業について

地域福祉分野

中項目	小項目	事業	主な内容
港区ならではの地域包括ケアの推進	（１）地域包括ケアの推進体制の充実	①推進体制の強化 ②関係機関連携の推進による地域課題への対応	・港区地域包括支援推進協議会 ・在宅医療・介護連携推進部会 ・地域リハビリテーション・介護予防推進部会（地域リハビリテーション推進会議）
	（２）重層的支援体制整備事業の実施	①相談支援体制の充実 ②アウトリーチを通じた継続的支援の充実 ③地域社会への参加支援	・福祉総合窓口 ・福祉関係機関等連絡会 ・重層的支援体制整備事業
	（３）医療と介護の連携の推進	①在宅療養推進体制の充実 ②医療機関等との連携体制の強化 ③情報共有による多職種連携の推進	・港区在宅療養相談センター ・みなと在宅療養サポート入院（港区在宅療養後方支援病床） ・港区医療機関等連絡会 ・在宅医療・介護連携推進部会
	（４）効果的な情報発信	①区民等への啓発 ②支援者間における情報の発信と共有 ③各種媒体による情報発信	・区民公開講座 ・港区医療機関・介護事業者検索システム ・港区地域包括ケア研修会 ・ホームページ、デジタルサイネージ等の活用

健康づくり・保健分野

中項目	小項目	事業	主な内容
安心できる地域保健・地域医療体制の推進	（３）支え合いによる地域保健活動の強化	①地域リハビリテーション体制の充実	地域リハビリテーション・介護予防推進部会（港区地域リハビリテーション推進会議）

２　地域包括ケアを推進する会議の報告

地域包括ケアの推進体制の充実

（１）港区地域包括支援推進協議会

港区の地域包括ケアの推進に向けた取組及び調整のほか、各分野相互の情報共有等を協議しました。

回数	開催日	議　題　等
第１回	令和７年７月23日 （参集）	１　令和６年度　港区の地域包括ケア推進事業の報告について ２　令和７年度　港区の地域包括ケアの推進について ３　高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について ４　令和７年度あんしん未来・終活サポート事業の検討状況について
第２回	令和８年１月20日 （リモート・参集併用）	１　令和７年度　港区の地域包括ケアの推進に関する事業報告について ２　あんしん生活サポート事業について（検討中）

港区地域包括支援推進協議会 委員名簿　令和７年度第２回開催時点（敬称略）

氏　名	職　名　等
河合　克義　◎	明治学院大学　名誉教授
坪田　淳　　〇	東京都港区医師会　会長
岡崎　正史	東京都港区芝歯科医師会　会長
兼松　由美子	東京都港区麻布赤坂歯科医師会　副会長
北村　兼一	東京都港区薬剤師会　会長
関根　和彦	東京都済生会中央病院　副院長
嶋津　多恵子	国際医療福祉大学大学院　教授
髙木　信之	港区介護事業者連絡協議会　事務長
長谷川　浩義	港区社会福祉協議会　事務局長
田中　泉	港区民生委員・児童委員協議会　会長
清原　元輔	港区町会・自治会連合会　会長
荒川　正行	保健福祉支援部長
笠松　恒司	みなと保健所長

◎会長　〇副会長

（２）在宅医療・介護連携推進部会　※港区地域包括支援推進協議会の下部組織です。

港区の在宅医療及び介護に関する連携の推進のため、在宅医療・介護の連携に関する調査や区におけるＡＣＰに関する取組等について検討しました。

回数	開催日	議　題
第１回	令和７年９月５日 （参集）	１　令和７年度の取組について （１）在宅医療・介護の連携に関する調査の実施について （２）区におけるＡＣＰに関する取組みについて （３）支援者のための関係機関連携ガイドブックの改訂について ２　令和６年度　地域包括ケア推進事業の報告
第２回	令和７年３月開催予定	調整中

港区地域包括支援推進協議会　在宅医療・介護連携推進部会員名簿　令和７年度第１回開催時点（敬称略）

氏名	職　名　等
安田　淳　　◎	東京都港区医師会　常務理事
菰池　信彦	東京都港区医師会　担当理事
華岡　眞幸	東京都港区芝歯科医師会　副会長
兼松　由美子	東京都港区麻布赤坂歯科医師会　副会長
青木　美子	東京都港区薬剤師会　副会長
福田　恵子	地域医療機能推進機構　東京高輪病院　医療連携・患者支援センター　社会福祉士
平松　シゲ子	医療法人財団厚生会　古川橋病院　看護部長
前田盛　貢	港区介護事業者連絡協議会　居宅介護支援部会長
小宮山　由香	港区介護事業者連絡協議会　訪問看護部会長
南塚　恵	港区立がん在宅緩和ケア支援センター　副施設長
海江田　太司	芝浦港南地区高齢者相談センター（地域包括支援センター港南の郷）　管理者
長谷川　浩義	港区社会福祉協議会　事務局長

◎部会長

（3）地域リハビリテーション・介護予防推進部会（地域リハビリテーション推進会議）

※港区地域包括支援推進協議会の下部組織です。
※事務局：港区みなと保健所 地域医療連携担当です。

地域リハビリテーション及び介護予防に関する取組の情報共有や関係団体等との連携の推進について検討します。また、昨年度に引き続き区中央部リハビリテーション支援センター（東京慈恵会医科大学附属病院）と連携し、区民講座を実施します。

今年度の活動

	開催日・会場	内容・議題
区民講座	令和８年１月８日（木） みなと保健所 ８階大会議室	区民講座「退院後から始める生活リハビリ　地域リハビリの可能性」 講師：安保 雅博先生 （東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科 主任教授 診療部長）

（今後の活動）
令和８年１月２１日（水）（予定）　区民講座「生涯美しく歩くために 骨と姿勢と運動習慣の話 一生モノの健康習慣」
令和８年２月１２日（木）（予定）　令和７年度　地域リハビリテーション・介護予防推進部会（港区地域リハビリテーション推進会議）

港区地域包括ケア推進会議 地域リハビリテーション・介護予防推進部会（港区地域リハビリテーション推進会議）委員名簿

令和７年１２月時点（敬称略）

氏名	職　名　等
安保　雅博　◎	東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科 主任教授 診療部長
腰塚　裕　〇	アットホーム表参道クリニック　整形外科・リハビリテーション科院長
西山　誠	六本木にしやま整形外科　整形外科院長
白土　貴史	地域医療機能推進機構　東京高輪病院　副院長　リハビリセンター長
佐藤　志穂子　〇	麻布地区高齢者相談センター（南麻布地域包括支援センター）　社会福祉士
小宮山　由香	８８ホームメディカルケア株式会社　訪問看護部会 会長（看護師）
江成　務	介護予防総合センター　センター長
大石　真由美	アステイジ株式会社　居宅介護支援部会（介護支援専門員）

◎部会長　〇副会長

3 地域包括ケアを推進する連絡会の報告

重層的支援体制整備事業の実施

（１）港区福祉関係機関等連絡会

福祉関係機関同士での意見交換や情報共有を行い、福祉総合窓口の円滑な運営、地域課題への対応強化及び地域資源の把握・活用をするため、福祉に関する各分野の相談を実施している関係者が集まり、港区福祉関係機関等連絡会を開催しました。

第１回	日時	令和７年７月22日（火）15時～17時
	会場	麻布区民協働スペース
	参加者	43人(各地区高齢者相談センター、各地区ふれあい相談室、障害保健福祉センター、精神障害者支援センター、障害者支援ホーム南麻布、児童発達支援センター、新橋はつらつ太陽、発達障害者支援相談室、がん在宅緩和ケア支援センター、生活・就労支援センター、在宅療養相談センター、港区社会福祉協議会、各地区区民課保健福祉係・生活福祉係、高齢者支援課、障害者福祉課、子ども家庭支援センター、児童相談所、みなと保健所健康推進課、生活福祉調整課、消費者センター)
	議題	１　開会のあいさつ ２　参加者紹介 ３　子ども家庭支援センターの業務について ４　港区重層的支援体制整備事業等について ５　事例検討（グループワーク） ６　その他
	内容	各関係機関の業務を知る機会として、子ども家庭支援センターから業務説明を行いました。 また、事務局から重層的支援体制整備事業についての説明を行い、その後、重層的支援体制整備事業の活用について、事例を用いてグループごとに事例検討・意見交換を実施しました。

第１回港区福祉関係機関等連絡会の様子 ☛

第２回	日時	令和７年11月14日（金）15時～17時
	会場	麻布区民協働スペース
	参加者	39人(各地区高齢者相談センター、各地区ふれあい相談室、障害保健福祉センター、精神障害者支援センター、障害者支援ホーム南麻布、児童発達支援センター、新橋はつらつ太陽、発達障害者支援相談室、がん在宅緩和ケア支援センター、生活・就労支援センター、在宅療養相談センター、港区社会福祉協議会、各地区区民課保健福祉係・生活福祉係、高齢者支援課、障害者福祉課、子ども家庭支援センター、児童相談所、みなと保健所健康推進課、生活福祉調整課、消費者センター)
	議題	１　開会のあいさつ ２　参加者紹介 ３　あんしん未来・終活サポート事業について ４　ひきこもり支援講演会について ５　港区生活・就労支援センターの業務について ６　グループワーク ７　港区重層的支援体制整備事業について ８　その他
	内容	各関係機関の業務を知る機会として、港区生活・就労支援センターから業務説明を行いました。 また、世帯で複合的な課題を抱えている事例を用い、それぞれの機関で果たすことができる役割や援助の方針、支援方法等について、各グループでの意見交換を実施しました。その後、重層的支援体制整備事業の説明を事務局から行いました。
	主な意見	・各支援者が制度を理解し提案できる知識をつけ、チームで見ていくことが重要である。 ・支援対象世帯についての困難な状況の片鱗が見えた段階で、関係者に情報共有をすることが大事であり、そのための関係づくりをしていくことが必要である。

第２回港区福祉関係機関等連絡会の様子 ☛

（２）港区医療機関等連絡会

港区ならではの地域包括ケアの推進のため、医療機関と在宅療養等に関する情報共有などの連携強化を図り、ケース対応等におけるネットワークの構築を目的として、港区医療機関等連絡会を開催しました。

第１回	日時	令和７年９月30日（火）14時～15時
	会場	オンライン開催
	参加者	22人(区内９病院のソーシャルワーカーまたは看護師、港区社会福祉協議会、在宅療養相談センター、事務局)
	議題	1　あんしん未来・終活サポート事業について 2　医療機関入退院の流れと留意点について 3　在宅医療・介護の連携に関する調査の実施について 4　ひきこもり支援事業について 5　在宅療養相談センターリーフレットについて 6　その他
	内容	あんしん未来・終活サポート事業の事業内容の確認や、今後の医療機関入退院の流れと留意点の作成方法について意見交換した。また、区が実施する調査や、ひきこもり支援に関する取組について情報共有した。
	主な意見	・「入院時サポート事業」については、今後も病院側と港区社会福祉協議会間の連携を深めていきたい。 ・90年代終わり頃に「社会的ひきこもり」という概念が広がったことで、若者だけのひきこもりから中高年のひきこもりへと認識が広がっていったかと思われる。「ひきこもり支援事業」における相談も多岐にわたることが想定されるため、相談窓口と連携をしていきたい。

4 地域包括ケア研修会の実施報告

効果的な情報発信

港区医師会を中心に、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、各回の担当病院にご協力いただき開催しました。

	第１回	第２回	第３回
日時	令和７年７月18日（金） 19時15分～21時00分 （オンライン開催）	令和７年10月24日（金） 19時15分～20時30分 （オンライン開催）	令和８年２月18日（水） 19時15分～20時30分 （オンライン開催予定）
参加数	191人	97人	-
担当病院	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都済生会中央病院	北里大学北里研究所病院
テーマ	その支援は正しいですか？-境界を越える瞬間の“現場のモヤモヤ” ～制度の“すきま”を前に、医療・介護職が知っておくべき社会とお金の仕組み～	地域包括ケアにおける摂食・嚥下・栄養の在宅での管理	在宅療養患者における便秘症について ～正しい知識で快便への第一歩を目指そう～
講師	講演 「どうすればよかったの？～意思決定支援での支援者の葛藤～」 東京慈恵会医科大学附属病院　患者支援・医療連携センター　医療ソーシャルワーカー　駒村　穂乃香 特別講演「地域における身寄りのない高齢者の対応について」 弁護士・武蔵野大学人間科学部客員教授　港区成年後見制度利用促進協議会副会長　八杖　友一	講演１ 「アップデートしよう！摂食嚥下の見直しポイント」 東京都済生会中央病院　摂食嚥下障害看護認定看護師　古舘　加菜子 講演２ 「知っておきたい！嚥下に配慮した食材・調理法」 東京都済生会中央病院　管理栄養士　山田　愛梨・髙橋　麻友	講演１「便秘症診療Up-To-Date」 北里大学北里研究所病院　内視鏡センター副センター長　阿曽沼　邦央 講演２「快便を作る日常生活の具体的ポイント！」 コンチネンスジャパン株式会社　専務取締役　（北里大学北里研究所病院　非常勤看護師）西村かおる
共催	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、東京慈恵会医科大学附属病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、北里大学北里研究所病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、北里大学北里研究所病院

5 港区在宅療養相談センターの運用

医療と介護の連携の推進

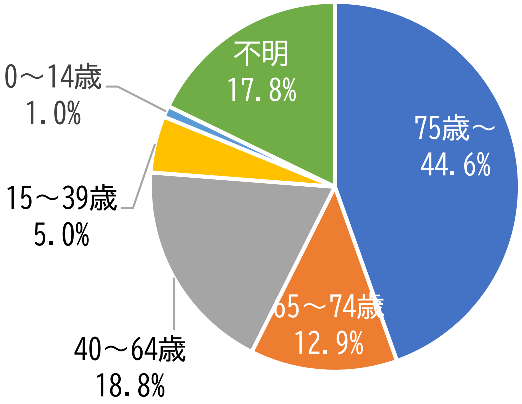
港区在宅療養相談センターは、医療機関及び福祉関係機関への訪問等により連携を一層進め、退院から在宅へ切り替わる際の相談対応や在宅療養に関する情報共有等、相談の機能強化を図りました。

（１）相談実績（令和７年４月～12月分）

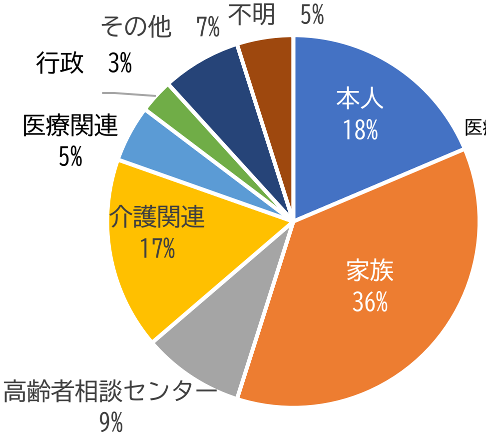
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
対象者数	10	18	7	9	14	11	11	11	10	－	－	－	101

１か月あたりの対象者数	令和６年度　約 12人	令和５年度　約 14人	令和４年度　約 24人

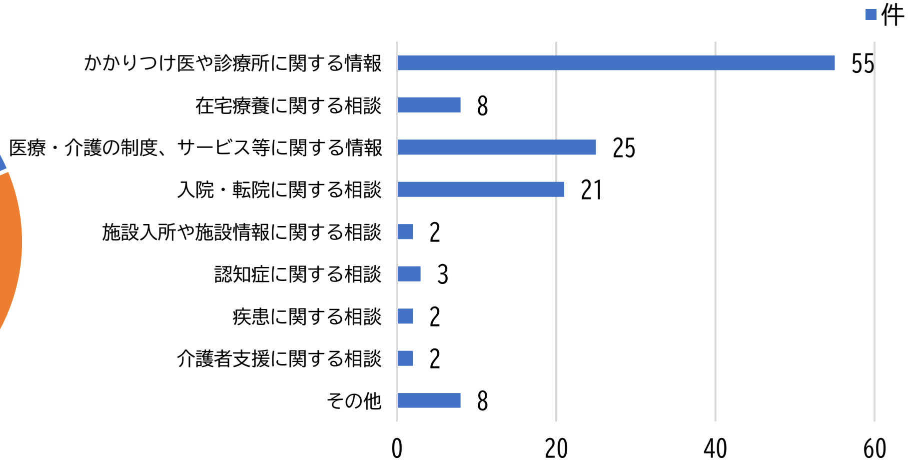
対象者の年齢



相談者の内訳（相談者n=102）



相談・問合せ内容（複数計上あり）



（２）相談対応以外の取組

今年度より、区民等を対象とした在宅療養に関する講座や、出張相談会を始めました。

○在宅療養に関する講座

いきいきプラザ等で区民等を対象とした講座を年５回程度実施しています。

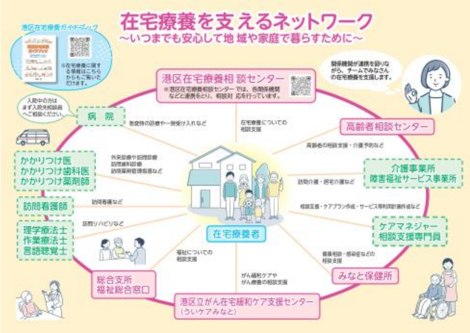
「在宅療養セミナー」
日時：令和７年11月10日（月）13時～13時45分
場所：港区立港南いきいきプラザ
参加者数：16名

＜参加者の感想＞
・こういう話を初めて聞きました。
・どこに聞いたらよいかわからなかったので、今日聞けてよかった。
・とても有意義でためになる講座だった。

○出張相談会

いきいきプラザや区民協働スペース等で、在宅療養に関する出張相談会を年５回程度実施しています。

リーフレットも内容や形態を
大幅に改訂し、
関係機関に配布しました



6 みなと在宅療養サポート入院(港区在宅療養後方支援病床)の運用実績

医療と介護の連携の推進

区内２病院（東京高輪病院、古川橋病院）と協定を締結し、一時的な入院が必要な区民が、速やかに入院することができる病床を確保することを目的とし、運用しています。

（１）入院目的（令和７年４月～12月分まで）

	レスパイト	介護者の急病・介護困難	対象者の加療	合　計
人数	20	46	96	162

過年度年間人数	令和６年度　163人	令和５年度　166人	令和４年度　162人

（２）利用者の年齢区分（令和７年４月～12月分まで）

	64歳以下	65歳～74歳	75歳以上	合　計
人数	13	6	143	162

（３）港区在宅療養後方支援病床の運用に関する連絡会

６月と12月に連絡会を開催し、在宅療養後方支援病床の利用方法や運営状況等について、区、２病院、港区在宅療養相談センターで情報を共有しています。

また、後方支援病床の周知用名称「みなと在宅療養サポート入院」を用いた区民向けのチラシの発行に向けて、連絡会の場を活用し意見交換を進めました。

7 福祉総合窓口における複合的課題への対応について

重層的支援体制整備事業の実施

平成４年８月に各地区総合支所に設置した福祉総合窓口では、保健師等が常駐している高齢者相談センターや障害者基幹相談支援センター職員とのスムーズで迅速な連携により、分野を問わず福祉の相談に対応しています。
福祉総合窓口の職員は、相談支援に係る記録を相談記録システムに入力しています。

【相談記録システム入力件数】

分　　野	件　数
高　　齢	984
障　　害	489
保　　健	6,283
生活福祉	223
合計（延べ件数）	7,979
入力実人数（単位：人）	2,220
うち、複合的課題への対応（単位：人）	56

※集計期間は令和７年４月１日～１１月３０日。
※複合的課題への対応とは、複数分野にわたる相談記録を保持するケースの件数。

【複合的課題の内訳】

分　　野	人　数
障害×生活福祉	19
障害×保健	12
高齢×障害	9
高齢×生活福祉	9
高齢×保健	2
保健×生活福祉	2
高齢×障害×保健	1
高齢×障害×生活福祉	1
障害×保健×生活福祉	1
合　　計	56

8 港区版ACPシートの作成・周知啓発

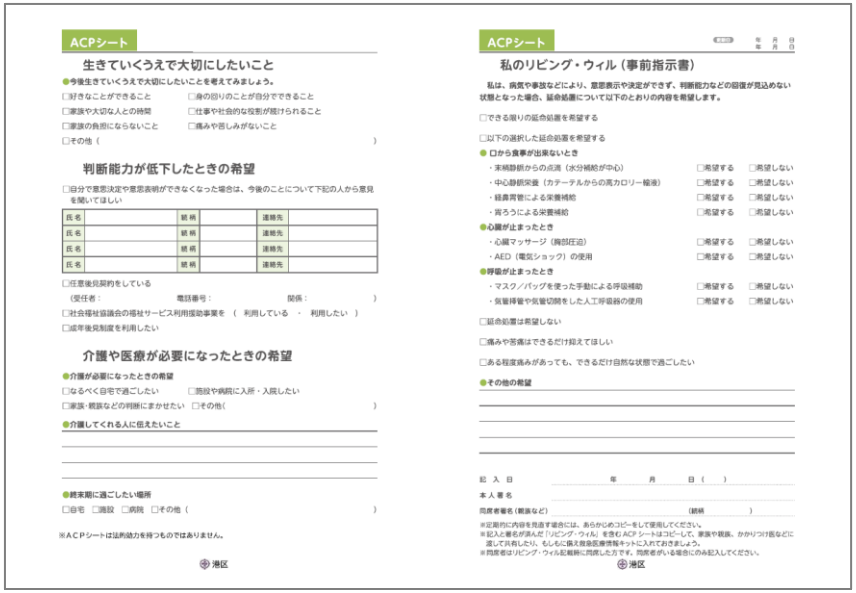
地域包括ケアの推進体制の充実

区では、最期まで自分らしく暮らすために、自分が希望する医療や介護をどのように受けたいか、家族や医療・介護の担当者とあらかじめ話し合い、共有する取組であるＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）を普及啓発するため、港区版ＡＣＰシートを作成し、令和７年10月１日より配布を開始しました。

＜港区版ＡＣＰシートとは＞

希望する医療や介護について書き留め、自分の希望を家族や医療・介護の担当者等と共有するほか、救急医療情報キットに入れる、自宅の見つけてもらいやすい場所に保管する、外出時に持ち運ぶ等、救急搬送時に見つけてもらいやすいよう保管することを推奨しています。

【項目】
・生きていくうえで大切にしたいこと
・判断能力が低下したときの希望
・介護や医療が必要になったときの希望
・私のリビング・ウィル（事前指示書）



ACPシート

生きていくうえで大切にしたいこと

●今後生きていくうえで大切にしたいことを考えてみましょう。

□好きなことができること　□身の回りのことが自分でできること
□家族や大切な人との時間　□仕事や社会的な役割が続けられること
□家族の負担にならないこと　□痛みや苦しみがないこと
□その他（　）

判断能力が低下したときの希望

□自分で意思決定や意思表明ができなくなった場合は、今後のことについて下記の人から意見を聞いてほしい

氏名		続柄		連絡先	
氏名		続柄		連絡先	
氏名		続柄		連絡先	
氏名		続柄		連絡先	

□任意後見契約をしている
（受任者：　電話番号：　関係：　）
□社会福祉協議会の福祉サービス利用援助事業を（　利用している　・　利用したい　）
□成年後見制度を利用したい

介護や医療が必要になったときの希望

●介護が必要になったときの希望

□なるべく自宅で過ごしたい　□施設や病院に入所・入院したい
□家族・親族などの判断にまかせたい　□その他（　）

●介護してくれる人に伝えたいこと

●終末期に過ごしたい場所

□自宅　□施設　□病院　□その他（　）

※ＡＣＰシートは法的効力を持つものではありません。

港区

ACPシート　年　月　日

私のリビング・ウィル（事前指示書）

私は、病気や事故などにより、意思表示や決定ができず、判断能力などの回復が見込めない状態となった場合、延命処置について以下のとおりの内容を希望します。

□できる限りの延命処置を希望する

□以下の選択した延命処置を希望する

● 口から食事が出来ないとき
・末梢静脈からの点滴（水分補給が中心）　□希望する　□希望しない
・中心静脈栄養（カテーテルからの高カロリー輸液）　□希望する　□希望しない
・経鼻胃管による栄養補給　□希望する　□希望しない
・胃ろうによる栄養補給　□希望する　□希望しない

●心臓が止まったとき
・心臓マッサージ（胸部圧迫）　□希望する　□希望しない
・AED（電気ショック）の使用　□希望する　□希望しない

●呼吸が止まったとき
・マスク／バッグを使った手動による呼吸補助　□希望する　□希望しない
・気管挿管や気管切開をした人工呼吸器の使用　□希望する　□希望しない

□延命処置は希望しない

□痛みや苦痛はできるだけ抑えてほしい

□ある程度痛みがあっても、できるだけ自然な状態で過ごしたい

●その他の希望

記入日　年　月　日（　）
本人署名
同席者署名（親族など）　（続柄　）

※定期的に内容を見直す場合には、あらかじめコピーをして使用してください。
※記入と署名が済んだ「リビング・ウィル」を含むACPシートはコピーして、家族や親族、かかりつけ医などに渡して共有したり、もしもに備え救急医療情報キットに入れておきましょう。
※同席者はリビング・ウィル記載時に同席した方です。同席者がいる場合にのみ記入してください。

港区

＜配布について＞

配布方法	配布場所
港区版エンディングノートの中に港区版ＡＣＰシートに該当するページを含めています。	終活相談窓口（港区社会福祉協議会内）、高齢者支援課、各地区総合支所区民課保健福祉係、各地区高齢者相談センター、各地区いきいきプラザ、ラクっちゃ　等
救急医療情報キットの申込者に港区版ＡＣＰシートを併せて配布しています。	各地区総合支所区民課保健福祉係、各地区高齢者相談センター、各地区いきいきプラザ、芝の家
区ホームページにＰＤＦデータ及びエクセルデータで港区版ＡＣＰシートを掲載しています。	区ホームページ

＜周知啓発について＞

〇区ホームページ上に新たにページを作成

　ＡＣＰ及び港区版ＡＣＰシートを周知するため、区ホームページに新たにＡＣＰに関するページを作成しました。ＡＣＰに関する説明や、港区版ＡＣＰシートのデータを掲載したほか、厚生労働省や東京都の関連ページへのリンクも掲載しています。

〇区民公開講座の開催

　今後は、令和７年度第３回区民公開講座にてＡＣＰをテーマとして医師による講演及びカードゲーム（もしバナゲーム）によりＡＣＰへの理解を深め、身近に感じてもらえるような講座を実施する予定です。

9　普及啓発

効果的な情報発信

（１）区民公開講座

港区ならではの地域包括ケアの取組について、区民等を対象に、区民公開講座を開催しました。

第１回	日時	令和７年９月３日（水）14時～16時
	会場	新橋区民協働スペース
	参加者	21人
	テーマ	介護保険の利用術～介護保険サービスを上手に利用するために～
	プログラム	・講演１「介護保険の概要」 講師：岩城澄恵（高輪地区高齢者相談センター） ・講演２「ケアマネジャーやヘルパーの役割とは」 講師：一井圭（アイム介護福祉支援センター） ・質疑応答
	アンケートの意見	・基本の「き」について、お話が聞けてよかった。 ・区民公開講座に初参加だったが、機会があればまた参加したい。 ・現実的なことが聞けてよかった。 ・介護予防総合センターが、芝浦港南地区以外にもあるとありがたい。

令和７年度第１回
区民公開講座の様子 ☛

令和７年度第１回
区民公開講座のチラシ ☛

第２回	日時	令和７年11月20日（木）14時～16時
	会場	麻布区民協働スペース
	参加者	11人
	テーマ	知っておきたい！在宅療養のこと～住み慣れた自宅で暮らし続けるために～
	プログラム	・講演１「訪問医師とは」 講師：菅野道貴（東京都港区医師会） ・講演２「歯科訪問診療の実際」 講師：西辻直之（東京都港区芝歯科医師会） ・講演３「訪問薬剤師とは」 講師：嶋野仁（東京都港区薬剤師会） ・質疑応答 ・情報提供「港区在宅療養相談センターのご紹介」
	アンケートの意見	・訪問医療が、包括的に理解できた。 ・とても詳しく説明してくれたので、参考になった。 ・説明が詳しくよくわかった。金額等も治療も健常な時がベストだとわかった。 ・住み慣れた我が家で暮らすには、様々な公的サービスと早めにつながっておくべきだと改めて認識できた。

令和７年度第２回
区民公開講座の様子 ☛

令和７年度第２回
区民公開講座のチラシ ☛

（２）みなと医療BOOK

　地域の医療機関や薬局の案内に加え、区の地域包括ケア推進の取組や在宅医療、感染症予防、母子保健、障害者、高齢者、防災等の情報を掲載した冊子です。

　港区医師会と協定を締結し、港区医師会主動のもと合同で作成し、2026年版は令和８年１月末に発行予定です。

（３）医療機関・介護事業者検索システム

　区民やその家族、支援者等に向けて、区内の医療機関等や介護サービス事業者の情報を「港区医療機関・介護事業者検索システム」に掲載しています。
　年1回、一斉調査を実施し、掲載情報を更新しています。また、随時、新規掲載や掲載内容の変更、閉業等に伴う削除の希望に対応しています。

〇医療機関掲載件数（令和７年10月時点）

	病院・診療所	歯科	薬局	合計
新規掲載件数	54件	22件	8件	84件
掲載件数	516件	380件	146件	1,042件
掲載割合	58%	62%	69%	63%

○三師会員掲載件数（令和７年10月時点）

	医師会員	芝歯科医師会員	麻布赤坂歯科医師会員	薬剤師会員	合計
新規掲載件数	21件	3件	6件	7件	37件
掲載件数	289件	121件	97件	102件	609件
掲載割合	77%	77%	68%	81%	76%

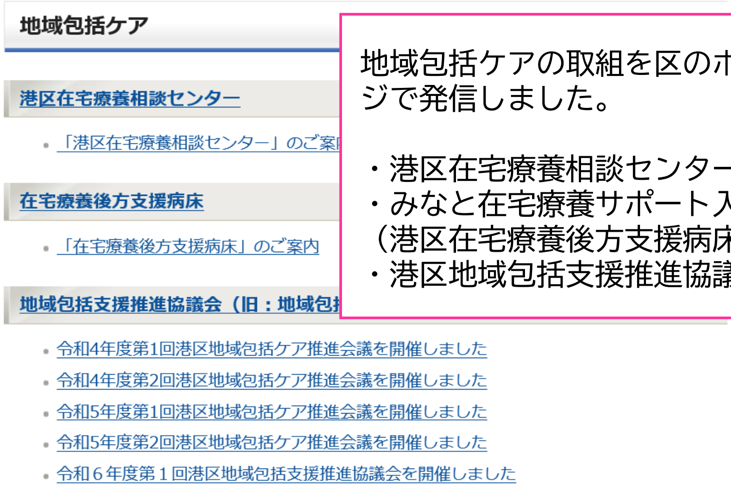
【医療・介護関係者への情報提供】

関係者専用ページには厚生労働省や東京都からの通知、港区からのお知らせを掲載し、医療・介護に関する情報や研修等への参加の機会を迅速に提供することができました。

＜お知らせ掲載例＞
・現場におけるハラスメント対策研修（東京都）
・在宅医療・介護の連携に関する調査へのご協力（保健福祉課）
・「感染症講習会」及び「嘔吐物処理講習会」の開催について（保健予防課）

（４）広報媒体

①区ホームページ



地域包括ケアの取組を区のホームページで発信しました。

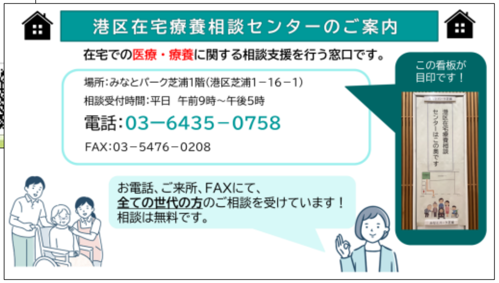
・港区在宅療養相談センター
・みなと在宅療養サポート入院（港区在宅療養後方支援病床）
・港区地域包括支援推進協議会

②デジタルサイネージ

総合支所をはじめ区内50箇所の施設に設置しているデジタルサイネージを活用し、地域包括ケアの取組を発信しました。

▲福祉総合窓口

▼港区在宅療養相談センター



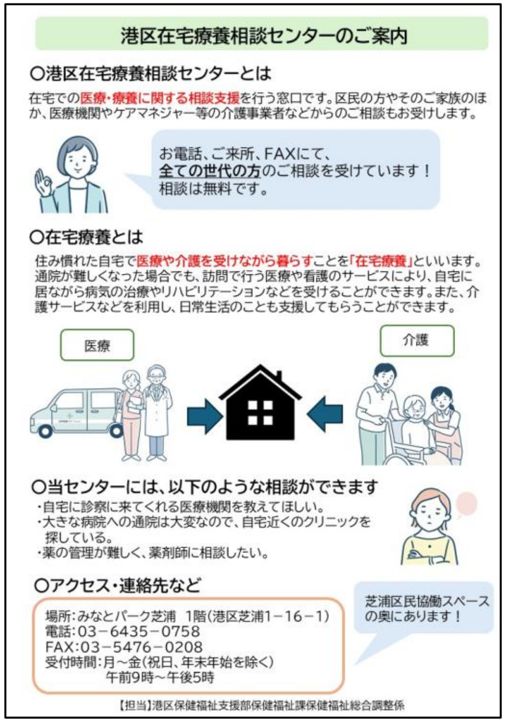
③区主催のイベント

◆港区介護予防フェスティバル

パネル展示にて港区在宅療養相談センターの周知を行いました。

開催日：　令和７年11月８日（土）

開催場所：港区立介護予防総合センター ラクっちゃ



④その他周知啓発活動

その他、専門学校の講義や生涯学習出前講座にて地域包括ケアの取組の啓発をしたほか、港区介護事業者連絡協議会会員誌にて在宅療養相談センターの周知記事の掲載を行いました。